



「しょーたーい とまれ」

豆と炭と藁との話

むかしく ある所で ひとりの 年とった お

ばーさんが ありましたとさ。

ある時のことでした。豆をい

ろーと おもって かまどに

炭を たくさん ついで それ

から 藁え 火を たきつけて

くべておきまして そして ほ

いろくの中^{なか}え 豆^{まめ}をいれて かまど え かけまし
た。

ところが一^{ひとつ}の豆^{まめ}が なにかの ひょしにふ
いととびで、 椽^{せん}の下^{した}え おっちたのです。す
るとそこにな 藁^{わら}が一本^{いっぽん} おちて居^かった。しばら
くするとこんどわ おしきなおとがして かまど
の なか、ら 炭^{すす}が一^{ひとつ}つ とびだして きました。
そこで 藁^{わら}すべが びっくりして 「おや 炭^{すす}さん
まーどこから あなたわ やってきましたか？」
すると炭^{すす}わ まっかなかを をして 「やっど 熱^{あつ}

い火のなか、ら とびだして きた ところ です。

かづくで で、 ほんろく から

こないと も少し とびだして きた

て 死んでしまっ んです。 でないと

て 灰になるとこ みんなと 一所に

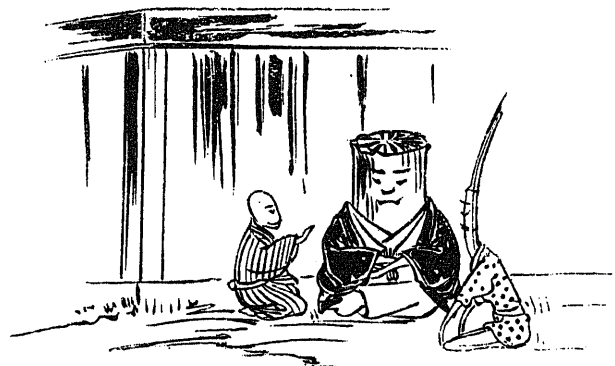
でした」すると ほろくのなか

豆わ そばから で おばーさん

「わたしもねーや に いりころされ

った のこととて * るんでした。「おや

そーですか じつわ わたしもね あのおばーさん



に つかまれて ますこして 火をつけられるんで
 したのさ 所が やつとのこととて おばーさんの
 指の間を くっつて ぬけて きたのです。 なんだ
 っ て わたしらの 兄弟が 六十人も 一所に
 つかまれたんですからね』。

そこで 炭が いーますにわ 『さて これから
 おたがいに どーした もの で しよー？』 す
 ると 豆が ちよつと 小首を かたむけて 『さよ
 ーさ 私の 思ーにわ まー お互に こーやって
 あぶない 所を 一所に たすかった のですから

これから 三人さんじんが 一所いっしょに なるーじやありませんか？ でないと また どんなめに あうかも しれませんよ。それで まー 三人さんじんで どこかえ見物けんぶつに でかけると しましよー じやありませんか」

「や それが よかるー」とゆーので やがて 三人さん人で でかけました。

さて だんく 行いきました所ところが ほそい溝みぞのところ へ え でゝきたのですが 困こまったことにわ 橋はしがない。 どーしたもんたるーと ゆーので 三人さんじん

とも 考かんがえて いましたが 藁わらすべ が はた と

小こ膝ひざを ううつて 「いいことがある 私わたしが橋はしになつて

お二ふた人たりを 渡わたしましよ」「なるほど 甘うまいな てわ

御ご苦く勞らうですが 藁わらさん 御お頼たのみも」しますよ」「よろ

しし ささ 御お渡わたんなさい」といつて 藁わらすべが

ここつち の 岸きしから 向むか側がわえ はしにか」りました。

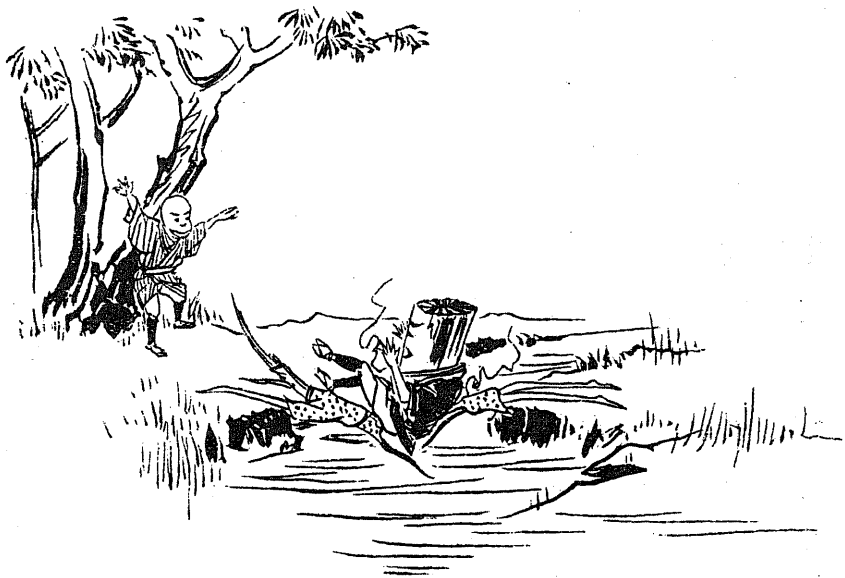
「ささ 炭すすさん 「まま 豆まめさん ああなたから 「てわ

おおささき え 小こ免かん ここむり まましよ」か」と ゆ

いいので 豆まめ わ 炭すすに」一ひと禮れいして ぼぼつつく わわたたつ

ていいつて ととく 向むかいがわ え つつきました。

さきほどから 炭^{すす}わ こっちで 豆^{まめ}の 渡^{わた}るの
 を まって いました が ね が 性^{せい}急^{きゅう}な 炭^{すす}の
 こと です から まちどーくて たまりません そ
 こで 豆^{まめ}が 渡^{わた}って 仕^しまうと すぐ いきなり 渡^{わた}
 りかけた。 なぜ 豆^{まめ}わ あんなに ぐづぐづした
 ん だろーなど とおもって 一^{ひと}飛^{とび}に ても 渡^{わた}るつ
 もりで かけたのです。
 と ころ が はし の 真^ま中^{なか}まで いて ふいと
 下^{した}を 見^みた 所^{ところ}が 水^{みづ}が どんく 音^{おと}が して 流^{なが}れて 居^い
 るので 急^{きゅう}に からだが ふるえて 來^きて 一^{ひと}歩^歩も



あるくことができないで
まんなかにじっとして
立って居る豆は向う
で見えておってしきりに
よんで居るがどししても
進めないそのうちに藁
わぼつくこげはじめ
てとうくまんなか
からやけおちたので
たまりません藁わ

ツに 折おれて 流ながれて 仕舞しう 炭すすわ じゆううつと
ゆー 音おとがして しづんでしまった。

この ありさま を見みて 豆まめわ びっくり ぎ

ふーてん 「おやっ」と さげんだ。 ところが その

ひょーし に 豆まめわ パツ と 二ふたツ に はじ

けて 仕舞しった。

こんな あんばい ですから もし そこえだ

れも 來きなかつたら 三さん人にんとも おなじ 様さまに な

つて 仕舞しうの でしたが をりよく したてやが

そこを 通とほりかゝつて まめが 二ふたつにわれてるの



て
る
の
が

を 見 て ま ー かわいそーにと ゆーのて
糸 と 針 と て 豆 の われめ を 縫 い つ
け て くれ ました。

で み な さ ん ご 覧 な さ い 豆 に わ い
ま だ も そ の 縫 目 が ちゃーん と 残 っ

分 り ま し ゃ ー ！ ！ ！

